

法華寺だより



釈尊降誕会・花祭り

お釈迦様は、およそ二千五百年ほど前(紀元前四百六十三年)四月八日に今の北インドのルンビニでお生まれになりました。釈迦族の第一王子の誕生です。父王シュッドーダナや母マヤーは元より一族全体が慶びに包まれたことでしょう。そのこともあつてか釈尊降誕会には数々の奇跡的なことが伝えられています。誕生後間もなく七

歩踏みだし、右手で天、左手で地を指し「天上天下唯我独尊 三界皆苦我当度之」(天にも地にも我一人尊い、私はこの世の人々を救うのだ)と話された事などもその一つです。このお釈迦様の智慧と慈悲の救いを信じ、命の大切さを確かめ合うのが釈尊降誕会(灌仏会)です

南無妙法蓮華経

日蓮宗のお経は 方便品

ほうべんぼん その三 舍利弗

によらいちけんこうだいじんのんむりようむげりき 無所畏 禅定 解脱 三昧 深入無際 成就一切 未曾有法 舍利弗 如来能種々分別 巧説 諸法 言辞柔軟 悦可衆心

【現代語意識】

舍利弗よ 如来の智慧は深く真理を見極める力は奥深いのです。それは、計り知れず、にも妨げられない力、恐れず心を集中して煩惱から解放され、深く絶対の真理を完成しているのです。舍利弗よ 如来は物事の道理をわきまえ、様々な教えを説きながら富んでいるので、人々の心を満足させるのです。

知っていますか?
この言葉の意味

『無碍』(むげ) 何者にも妨げられないこと

『畏』(い) おそれ、威圧を感じて心がすくむ

六波羅蜜 その②

あなたも心掛けて

その(一) 布施を施す

施しは、施す者、施しを受ける者、施すもの(有形無形)それらが全て清らかであることが大切です。 欲の無い謙虚な気持ちで施すことです。

・あえて善行を行ってやる、見返りは当然あるよな等々、その様な気持ちでは……。 施しを受ける側も、それ以上を望んだり、繰り返されることを期待しないことです

南無妙法蓮華経

『禅定』(ぜんじょう) 仏道修行の一つで、心を鎮め対象に集中する

『解脱』(げだつ) 煩惱に苦しむ迷いの世界から解放され、真の自由の境地に至ること

合掌



ご案内

四月 八日 釈尊降誕会・花祭り

五月 六日 開山上人法要
十二日 日蓮聖人降誕八百年慶讃
北海道大会(札幌)

心といのちの相談所
老若男女幾つになっても悩
みや心配事の絶えないも
の
……ご来所やお電話を……

今月の聖語

さくららは
おもしろき物
木の中より
なまきつて

【心の花を咲かせよう】
寒風にさらされればつんと立つ桜の木姿を見ると、春にあのような花が咲くとは想像しがたいものです。春の陽光の縁を得て、木の中に宿っていた精気が咲き出すのです。

私達の心の中にも優しい仏の芽が宿っています。仏さまの教えに触れて、心の花をさかせましょう。
〔重須殿女房御返事〕より
日蓮聖人御遺文

覚書 二月

十三日 婦人会総会
【コロナのため延期】
二十日 彼岸会法要
感染防止策をとり実施
二十四日 帯刑教誨



一休み

●「日蓮宗信行読本」より（拾い読み）
第六章 生活を導く日蓮聖人のことば

8、「一生は夢の上、明日を期待せず
いかに乞食になろうとも
法華経に傷を付けたもうべからず」

日蓮聖人は右のようなことを述べられたそうです。並の男ならば、とても言える言葉ではないと思いませんか。“人間の一生は夢か幻のようなものだ。明日の命だつて分からない。それなら私の理想である法華経の教えに生きるためには、乞食に

心奉仕に感

☆布薩会と婦人会様

お焚き上げの焼却炉導入しました
仏具類ほか、お仏壇の御焚き上げも可能です



法華経名句 私撰

（安樂行品第十四）

若菩薩摩訶薩 住忍辱地
住忍辱地

柔和前順 爾不卒暴
爾不卒暴

心亦不驚
心亦不驚

松本慈恵師の解説参照

菩薩摩訶薩は、怒ることもおこる事も無く堪え忍ぶ境地を保ち、正しい法に従い我を張ることもなく、常に落ち着いて慌てふためくこともない。
仏の滅後の悪世での菩薩は、堪え忍ぶ境地に立ち、優しく真理に順じて諸法実相を観て、執着を捨てな

なつてもよい”と言う言葉。日蓮聖人の回りに多くの熱烈な女性信者が集まっていたのも当然かもしれません。“大事の成就のためなら、平気で損が出来る”人だったかもしれません。
ある尼僧の所に、新興宗教の教祖になることを勧める話が持ち込まれました。何もしなくてもよい、唯座っていれば儲かるというものです。でも、尼僧は断りました。「信仰は、み仏の心に沿って行うことが大切。わたしに徳があれば、み仏さまから力を頂けるでしょう。み仏の心に背くことをして、法華経に傷を付けたくはありません」

参照・引用

- ※日蓮聖人聖語カレンダー
- ※「日蓮宗のお経」
- ※「法華経名句辞典」松本慈恵
- ※日蓮宗新聞 その他

編集後記

◆今年の春のお彼岸会は例年と違いました◆言うまでもなく新型コロナウイルスの為◆本堂の扉も窓も開け放ち、マスク姿で数珠とうちわ太鼓でお題目◆お上人様の勤行もいつにもまして熱を帯びていました◆中国での初期対応が適切ならば……◆それにしても早く収束してほしいもの！◆

◆山崎記◆